

行政事業レビューシート (環境省)

事業名	いぶき (GOSAT) 観測体制強化及びいぶき後継機開発体制整備		担当部局	地球環境局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度～平成28年度		担当課室	総務課研究調査室		室長	松澤 裕	
会計区分	一般会計		施策名	9-3 環境問題に関する調査・研究・技術開発				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計 画、通知等	京都議定書目標達成計画 宇宙基本計画				
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	地上観測における温室効果ガス観測の空白域をいっそう削減し、炭素循環の解明への貢献、領域別の吸収・排出量の推定精度の高度化を通じ、気候変動科学の進歩及び気候変動政策へ貢献することを目的として「いぶき」後継機の開発を行う。							
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	「いぶき」後継機に搭載する温室効果ガス観測センサーの概念設計を行う。併せて、いぶきの観測・データ処理手法の課題を精査し、後継機のために、地上等の検証データの観測強化、検証モデリング技術の高度化によるデータ品質の向上、濃度推定手法、吸収・排出量推定手法の高度化を進める。また、いぶき及びその後継機のデータ、関連する観測・モデリング技術を用いてREDDプラス活動による温室効果ガス削減・吸収効果を定量的・客観的に把握する検証部分を担いうるシステムを開発する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	-	-	-	-	3,000	
	執行額	-	-	-	-	-		
	執行率 (%)	-	-	-	-	-		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	成果は開発後(後継機打ち上げ後)の後継機のデータの科学利用と政策利用である。それまでの間は国内外の科学利用・政策利用の見込み・期待により定性的に計測しうる。		成果実績	-	-	-	-	-
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	アウトプットは、開発完了(後継機打ち上げ及び現行機より精度の高い観測データ提供)である。それまでの開発段階では、適宜、開発のステップ(センサーの試作等)を設定する。		活動実績 (当初見込み)	-	-	-	-	( - )
単位当たり コスト	(円/ )		算出根拠	現時点で単位当たりのコストを算出することは困難であるが、開発経費を現行機以下とすべく何らかの単位コストについて現行機との比較を行うことを検討。				
平成 2 3 ・ 2 4 年 度 予 算 内 訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	公害調査費	-	3,000	-				
	計	-	3,000					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	新規要望
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	-	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	新規要望
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	-	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	新規要望
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	-	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	-	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>本事業は、世界で唯一の温室効果ガス観測衛星である「いぶき」及びその後継機による世界最先端の技術を駆使した観測を通じ、気候変動科学への貢献、国内外の気候変動政策へ科学的バックグラウンドを提供することにより、我が国の貢献、国際社会への責務を果たすものであり、引き続き環境行政を所掌する環境省として立案・実施することが適当である。いぶき後継機の開発は、宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所と共同で実施する予定であり、現行機開発時の開発費用を精査し、既存の技術を流用可能なセクションは可能な限りこれを用い、現行機を下回る費用で開発を完了する予定である。</p> <p>いぶき及びその後継機により、現時点で世界的にも代替しえない科学的知見を提供し続けることで我が国のイニシアチブを世界に示し続けるため、平成28年度の開発完了・打ち上げを目指し、いぶき後継機の開発及び関連するシステム等の統合的高度化を実施することとした。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
		<p>関連機関と協力連携を図り、いぶきの観測・データ処理手法の課題を精査するなど、地上等の検証データの観測強化、検証モデリング技術の高度化によるデータ品質の向上、濃度推定手法、吸収・排出量推定手法の高度化を進めるとともに、後継機開発の設計に努めること。</p>	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			